

## ■ 第11回 奈良県弓道遠的選手権大会

(兼 全日本弓道遠的選手権大会 県予選会)

奈良県国体成年予選会(第1回目)

日時: 平成20年4月27日(日)

会場: 奈良県立橿原庭球場遠的射場

奈良県立橿原公苑弓道場

参加者 57名

男子

1位 蔵地隆文 130点 17中

2位 乾 光孝 108点 16中

3位 山口亮二 105点 15中

女子

1位 林 秀子 111点 16中

2位 平井摂子 63点 11中

3位 河合博子 60点 12中

全日本遠的選手権大会の奈良県代表選手に男子は  
阪中 計夫、藤岡 順、女子は山口 愉佳子、井上ゆみ子  
が選出されました。

ねんりん(予選会、近的10射)

1位 清水 勝 7中

2位 宮本 修 6中 遠近

3位 中谷邦弘 6中

## ■ 平成20年度 奈良県高等学校弓道選手権大会

4月29日(火) 橿原公苑弓道場

参加者 女子84名 男子100名

男子総合

①新子 紘司(五條)②中川 雄貴(橿原)

③坂本 晃平(橿原)

男子近的

①岡山 京介(奈良北)②岸田 龍也(高田商業)

③藤堂 育久(平城)

男子遠的

①新子 紘司(五條)②溝島 卓(西の京)

③北野 智也(王寺工業)

女子総合

①江浦 美奈(郡山)②石川 美佐希(橿原)

③藤井 真美(橿原)

女子近的

①藤井 真美(橿原)②井岡 千幸(畝傍)

③弥富 衿奈(高田商業)

女子遠的

①平泉 加奈(高田商業)②吉田 早希(橿原)

③木尾 真奈美(橿原)



## 昇段おめでとうございます

3月16日(徳島),岡本篤子さんが六段、3月30日  
(大津)に高倉美香、西田ゆり、遊田博之さんが五段、さ  
らに5月4日(京都)に塩谷行庸、吉本清巳さんが六段  
に合格されました。



## 今年度の県連の新部長より一言

### 【競技部 松田 仁 部長】

今期は、

- ・ 競技参加者の増加
- ・ 立射競技での体配
- ・ 競技時間の短縮

上記三点を主な課題として運営をして行こうと思いま  
す。微力ながら競技運営がスムーズに行われるように勤  
めてまいりますので、ご協力を宜しくお願い致します

### 【国体強化部 藤岡 順 部長】

まだまだ経験も知識も浅く、若輩者の私ですが、会員  
皆様のご協力とご理解をいただき、務め上げたいと考  
えております。方針は従来通りで(便覧参照して下さい)、  
強化選手に選ばれた方が、何か感じていただければと思  
います。

### 【財務部 眞鍋 征史 部長】

奈良支部所属。弓道歴13年、職歴では財務35年、弓  
道より財務の方が連盟に貢献できるとのご配慮いただき  
(?)、今年より前任の山本部長から連盟の財務を引き継  
ぎます。まだ連盟財務の仕組みに不慣れにて、ご迷惑お  
かけする点多いと思いますが、ご支援・ご協力の程よ  
ろしくお願い申し上げます。

財務は連盟の台所、当世、いづこの台所も歳入不足に頭  
を痛めているようですが、わが連盟の収支もやや曇り加  
減、と言う訳で、「出るを制して入るを図る」が財務の  
基本方針です。でも、連盟の収支は活動のバロメーター、  
あまりな節約の収支は「角を矯めて牛を殺す」ことにも。  
弓道の伝統精神は、縮みより伸び合い、財務もまた縦横  
十文字に大きく伸び合いたいものです。

## 大和郡山お城まつり

「お城まつり」は大和郡山城址一帯で行われる、大和郡山市民あげての春の伝統行事で、お祭りの原型である「数珠



くり法要」のほか、こども時代行列や金魚品評会、芸能、各種作品展とともに、武道大会(弓道・柔道・剣道・居合抜き・なぎなたの各種目)が行われます。

桜花の開花期に毎年開催されてい

た金魚品評会に合わせて行うことになり、今日まで古い歴史と伝統のあるいろいろな行事が4月の中旬に集中して催されるようになりました。

「弓道の部」は大和郡山市弓道協会の主管で、毎年第一日曜日に開催しています。



大会には、奈良県連の指導的立場におられる諸先生を審査員としてお迎えし、近的・個人種目の予選から決勝までのすべてを採点

制で行っています。

今年も高校生を主体とした二段以下の部と、一般を主体とした参段以上の部に分けて行いましたが、狭隘な道場にもかかわらず150名余の皆さんに参加していただきました。予選の一手1回の矢数を何とか2回に増やしたいと思いつながら、時間的な制約のため思うようになっておりません。それでも、参加していただいた皆さんには、審査員諸先生の厳しい評価により自分の射技・体配を振り返り、新しい課題を見つける格好の機会となり、喜んでいただいています。また、大会終了後には18歳以上の方々による懇親会の場を設け、審査員の先生方を囲んだ和やかな中で射技の勉強をさせていただいています。

規模は小さいのですが、当協会として今後ともこの大会をますます育てていきたいと思っておりますので、県連各支部の皆さんも是非ご指導・ご協力をお願いします。

(理事長・能島正和)

## ■ 平成20年度 全国高等学校総合体育大会

### 第53回 全国高等学校弓道大会 県団体1次予選

5月5日(月) 橿原公苑弓道場  
参加校 女子14校 男子20校  
5人立 各自8射 計40射

#### 男子予選通過校

27中 奈良北高校  
26中 五條高校  
高田商業高校  
平城高校  
24中 橿原高校  
23中 畝傍高校

#### 女子予選通過校

28中 高田商業高校  
24中 橿原高校  
22中 平城高校  
18中 郡山高校  
畝傍高校  
五條高校

決勝リーグ戦は6月8日(日)に橿原公苑で行われる。

## ■ 県内行事予定 (六月～八月)

6/01 (日) 称号者大会 審査員研修会  
6/08 (日) 高校総体 県二次予選  
6/15 (日) 国体成年、少年最終選考  
6/22 (日) 伝達講習会  
7/05 (土) 県教職員大会  
7/06 (日) 県民体育大会  
7/13 (日) 県女子講習会  
7/19 (土) 高校審査特別講習会  
7/20 (日) 第216回地連臨時審査  
7/21 (日) 県中学校総合体育大会  
7/27 (日) 伝達講習会(学校指導者)  
8/03 (日) 第三回伝達講習会(支部指導者)  
8/31 (日) 第217回地連審査

## 一般 主要競技会 (ご参考)

6/6-8 第55回全日本勤労者弓道選手権大会(新潟)  
6/15 中日本女子大会(松本)  
7/20 全日本選手権近畿予選会(京都)  
8/24 国体近畿ブロック大会(大津)

## 支部めぐり

### 郡山支部 編

郡山支部の弓道場は「やまと郡山城ホール」武道場の中にあります。歴史をひも解くと大和郡山藩に天正十三年(1585)羽柴秀長が入城以来、日置吉田流の流れを汲む数々の名匠が仕えました。中でも日置流雪荷派の二代当主吉田元尚 日置流道雪派、当主伴喜左衛門はつとに有名で、兩人ともその後近世弓術発展の大きな原動力となりました。大和郡山市弓道協会はこうした故人の業績や遺訓に学びながら、現代弓道のますますの発展と正しい武道文化の継承を目指して活動しています。(協会資料より引用)

大和郡山市弓道協会が組織されてから8年が過ぎ、新しい機構になってから4年が経過。

現在、県登録の正会員63名、と準会員・教室会員含めて総勢82名の会員となりました。年齢別に見ると下は小学校から始めた教室会員から上は前期高齢者の老若男女まで、会員数も当初の予想を上回る会員状況です。平成17年度より会務を分掌化し部単位で役割分担を決めて活動することになり、それまでは一部の人だけに頼っていたのですが部制により全員参画の意識が強まり連帯感高まってきました。



活動内容については若手会員が中心となり各種行事を牽引し、毎月の例会も指導部が中心となり課題を掲げて開催し、ようやく定着化してきたところです。年に一度、参加者が寝食を共にして弓道に明け暮れる1泊2日の宿泊研修会の実施(今年度は伊勢神宮の道場を予定)や各種大会(お城まつり弓道大会、市民体育大会、親子まつり等)に於ける企画運営も積極的に取り組み、躍動感溢れる動きが出てきました。これからも「活力ある協会」「気持ちよく弓が引ける道場」にしていきたいと思えます。

先生方のご尽力と大和郡山市教育委員会、同、武道振興会のご支援のたまものと感謝しています。今後ともご支援、ご指導をよろしくお願いします。(能島正和)

## 歳時記

「六月」 梅雨

六月は梅雨の季節です。立春より百三十五日目が入梅の日になります。

この日からおよそ三十日ぐらいの間は、農作物にとってたいへん大切な雨の贈り物があります。梅雨の梅は黴菌の黴に通じ、黴の雨をいいます。

また今日では六月は更衣の季節で、学生や警察官などの服装が夏姿となります。



この六月は田植えの時期に当たります。伊勢神宮でも御田植行事がとり行われますし、住吉神社の御田植式も著名です。かつて、田植えにつきものであったのが蓑(みの)です。藁(わら)や茅(かや)やシュウロあるいは、菅笠の菅(すげ)などで製作しますが、背に当たる部分に民芸品の味があります。外側は雨しずくをさばくため、編みっぱなしにしてありますが、地方々々で色々な趣きがあって、精巧な物もみられます。



また傘は、雨傘のほかに、茶の野点、僧侶の道中などに長柄の大傘や端折傘(つまおりがさ){骨の先を曲げてあるので、羅紗の袋などにおさめて持たせる}など、行事を彩るものがみられます。

赤い毛氈に赤の長柄の大傘などは、雨より日除け用の傘ですが、何とも風情のある日本の味となっています。蛇の目傘、唐傘などは現在こうもり傘に追われた形になっていますが、旅先の旅館などで時々見かけますが、懐かしくもあり、風情があります。

傘は柄のついたものを云い、笠は頭にかぶるものを指します。雨の日の混んだ電車の中などでは、濡れた傘の扱いに気を付けましょう。

車内に限らずに濡れた面が触れないように注意し、傘のしずくや、傘どうしのぶつかりに、気を配りましょう。

「小笠原流マナー」 著者小笠原清信 グラフ社発行より  
中笠原大学藤原孝澄(中笠原樹)